

## 〈2013-2014 年度 事業計画〉 案

### ＜教育をめぐる情勢＞

- 民主党政権が終わり、再び自民政権となった。理数教育の充実、心の教育の推進など予算へも反映している。
- 福島原発事故は未だ終結せず、大きな問題を日本や世界に投げかけている。
- アベノミクスがいわれているものの日本の経済状況は全体として未だ改善されず、子ども達の学習環境へも大きな影響を与えている。
- 算数数学の少人数指導が進められているが、「35人学級」の完全な実現とともに、さらなる学級定数の削減がのぞまれる。「小一プロブレム」「中一ギャップ」等への対応が多くの自治体で行われている。
- いじめ、体罰などの重大事件、事故が続く、対策がさまざまに検討されている。子ども達が安心して学習し生活できる学校とすることが求められる。
- 小学校では、新しい学習指導要領に基づく教科書での学習が3年目である（中学校では2年目、高校では1年目）。小学校では教科書検定の年になる。新教科書の改訂に注視する必要がある。
- 政権交代により、昨年行われなかった全国学力テストが今年実施された。全国で学力向上策が推進されている。学力の現状や、どうして学力が身につかないかなどについて、十分な研究が求められる。
- 免許更新制度、研修の義務づけが進んでいるが、自主的な教育研究は一層重要になっている。
- 小中一貫及び中高一貫が様々なレベルで取り組まれている。幼保小の連携も進められている。小中高の12年間を見通した一貫教育校の検討を始めている自治体もある。
- 教員の世代交代が引き続き進んでいる。ベテラン教職員の大量退職が続いているが、年金問題などにより、再任用、再雇用という形態で現場に残る方も多い。若い教員の採用も進んでいるが現場の経験をいかに継承していくかが課題である。
- 学校において、多様な職務形態が進み、正規雇用でない教職員が増えている。これらの職員間の協力を進めていくことが重要になっている。

会として昨年度の総括と現在の教育情勢を踏まえ、子どもから学習課題を引き出し、子どもの学ぶ意欲を伸ばす教育を追求していく立場から、次の2つのことを重点目標とし、3つの方針で取り組む。

### ＜重点目標と方針＞

#### （重点目標）

- ★ 算数・数学の教育実践の質を今まで以上に高め、子どもの生きる力となる算数・数学の授業を創り出ししていく
- ★ 算数数学の教材や授業方法の研究を進め、望ましい教育課程を追求していく

#### （方針）

- ☆1 実践交流の充実、及び、サークル活動の充実を図り、会員増を目指す  
毎回の研究会のねらいを明確にして、「参加して良かった」「発表して勉強になった」と思えるような研究会にする。また研究会の内容を交流するなどして、サークル間のつながりをもてるようにする。分かりやすい会のキャッチフレーズを検討する。
- ☆2 機関誌「算数・数学の授業」、研究紀要「実践研究」、会報のそれぞれを定期的に発行する  
これらの定期発行物によって、会員のつながりが一層深まり、研究が推進することを目指す。そのため、会員の意見に絶えず注意を払いながらより充実したものとなるよう計画的に編集、発行をしていく。
- ☆3 ホームページの定期的な更新や会員間の連絡にメールを利用するなど、通信手段を効果的に活用する。  
会のホームページを充実させ、研究会の案内や報告を定期的に更新し、会の内外に発信する。また、メールやメーリングリストを活用して情報を伝え合い、会の活動を機動的に進める。

### ＜研究面での活動＞

- ①研究紀要「実践研究」が、広く数学教育の研究に寄与し会員の実践の支えとなるよう、さらなる内容の充実を目指す。
- ②機関誌「算数・数学の授業」を活用して、より良い授業のあり方をサークル等で検討し、日々の授業に生かす。
- ③学習会は、年間を見通した計画を立てて準備し、広く参加を呼びかけて大勢が参加できるようにする。
- ④大会では、学ぶ価値のある内容とは何か、指導したことがどのように学ばれるのか、などを意識した実践研究を交流する。

### ＜組織面での活動＞

- ①引き続き、サークル指導者を確保しながら、サークル員を増やしていく。さらに、新たな地域にも活動を広げるなど、サークル活動の充実を目指す。
- ②継続的な中高の交流や実践研究を進めるため、中高サークルの結成をめざす。
- ③各地のサークルと連絡を密にし、それぞれの大会に互いに参加し合えるようにする。

### <広報面での活動>

- ①機関誌「算数・数学の授業」を、151号～154号まで、4号発行する。〔10月・12月・3月・6月〕  
(以下⑥まで機関誌に関する活動)
- ②各研究会や、各大会に参加し、発表内容を知り、広く執筆を依頼する。
- ③教育実践の他、算数数学の理解や教育問題に関する解説なども掲載して、内容を充実させる。
- ④研究会に寄せられたアンケートを掲載し、研究会の様子を伝える。
- ⑤表紙写真やカラーページを用いて、全国の実践がよく伝わるように工夫する。
- ⑥会員の意見を聞いて、次の機関誌作成に生かす。
- ⑦会報は、年数回発行する。
- ⑧会報に、サークルの現況やアンケート結果、会員の意見などを掲載し、数実研の活動のより良い発展につながる編集をする。

### <庶務面での活動>

- ①会費の納入は、全国大会の申し込みと同時に受付を開始する事とし、納入率を高め財政基盤の強化を図る。
- ②会の充実発展に役立つような予算の執行をさらに心がける。

### <渉外面での活動>

- ①民間教育連盟と連携して、より良い教育の方向を探る。
- ②国内外の情報を入手し、会員に必要な情報を伝える。
- ③会員の実践や研究を、会員外の人々にも伝えたり広めたりしていく。

### <活動計画一覧>

月	研究会・学習会	会議	刊行物〔関連団体事業〕	大会準備
8	63回全国大会(10日、11日) (オリンピックセンター)	理事会・総会 事務局会議 常任理事会	〔日数教全国大会〕 〔全教全国教研〕	第63回総括 第64回始動
9		事務局会議	会報134号	第64回の方針と概要作成
10		常任理事会	機関誌151号「大会報告集」	詳細を検討
11	秋季学習会(4日) 福岡県大会	常任理事会 事務局会議	〔東京教研集会〕 会報135号	同上
12		常任理事会	機関誌152号	同上
1	関東東京地区大会(13日) 東北酒田大会	常任理事会 事務局会議	〔日教組全国教研〕	同上
2	西日本大会	常任理事会 事務局会議	会報136号	同上
3		常任理事会	機関誌153号	担当ごとの準備
4	春季学集会Ⅰ(5日) 春季学集会Ⅱ(26日)	常任理事会 事務局会議	会報137号	申込書付き案内配布
5	福岡県大会	常任理事会		担当ごとの準備
6		常任理事会 事務局会議	機関誌154号	要綱作成 第65回始動
7		常任理事会 事務局会議	研究紀要26号	担当ごとの準備
8	64回全国大会(9日、10日)	理事会・総会 事務局会議 常任理事会	〔日数教全国大会〕 〔全教全国教研〕	第64回総括